

令和 7 年 2 月

関係者各位

世田谷区立用賀小学校  
校長 安藤 由季子

## 前年度の改善方策について実行した改善結果

### 1 令和 6 年度の用賀小学校の経営

#### <自己肯定感・協働する力の育成>

- ・「学び合う活動」を通し、自分の考えを伝えること、人の思いに触れること（思いを聴く姿勢）、人の心を感じ、温かい言葉を掛け合うことを大切にする。
- ・「学びを振り返る活動」を通し、自分のよさを見付け、自分に自信をもつ。
- ・学びをもとに自分のめざす姿を思い描き（未来デザイン）、思い・願いをもとに自分らしく行動する。

#### <課題を解決する力の育成>

- ・自らの課題を見付け、もてる力を活用し、ねばり強く課題解決に努める。
- ・解決のための見通しをもち、必要な情報を収集したり整理分析したりして自分の考えをまとめ、表現していく。（探究的な学び）
- ・意見交流しながら協働して学び合う。
- ・学びを振り返り、次につなげる。

#### <健康な心や体を自ら作ろうとする力の育成>

- ・自分の心や体の調子を知り、健康な毎日を送ることにつながる自己の取組目標を決めて、前向きに取り組む。

### 2 数値目標の達成結果

#### 1 「キャリア・未来デザイン教育」の実現<自己肯定感・協働する力>

- ・教員全体で意識的に行っていることが、児童アンケート調査からの結果が比較的肯定的な回答に繋がっていると考えられる。令和 5 年度の評価では、高学年になるにつれて、自分に自信がなくなること、自分の考えを他者に伝えることに課題があったが、教員が多く伝える場面を設定した効果もあり、改善の傾向が見られる。（5 年昨年度 65.8%から今年度 72.3%へ、6 年昨年度 70.2%から今年度 84.5%へ）
- ・児童の「目標をもち、その実現に向けて努力している。」が 81.1%（昨年度 74.6%）と高く、「学校生活の中で自分の役割に責任をもって活動している。」も 84.6%（昨年度 75.9%）と高く児童の肯定的評価が高かった。教職員全体で取り組んでいるキャリア・パスポート等の活用や道徳の授業の工夫や生活の中で児童が挑戦する場面が多くなったことが成果として表れていると考えられる。

#### 2 教育のDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進<課題を解決する力・協働する力>

- ・児童アンケート調査結果から、「先生は映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」の項目において、肯定的回答をした児童が 93.3%いる。GIGA スクール構想のもと、全児童への一人一台のタブレット端末配備から、校内の ICT 推進委員会を中核とした組織的・計画的な教職員の ICT 活用研修を行ってきたことで、教員の活用スキルが向上し、授業内での日常的な活用が定着したと考えられる。
- ・児童アンケート調査結果から「私は、問題を解決するために、必要な情報を集めたり、整理したりして自分の考えをまとめている。」の肯定的回答が 72.1%であり、「私は、めあてに向かってあきらめずにねばり強く取り組んでいる」の項目では、児童の肯定的回答が 76.7%、保護者の肯定的回答が 72.6%だった。学校の自己評価アンケートと合わせて考えると、映像やタブレットを活用した分かりやすい授業が実施されている一方、情報収集や整理する力、「ねばり強くがんばれる力」

の向上には改善の余地が見られる。

- ・児童アンケートでは「先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」の項目に対して、86.6%が肯定的回答だった。一方で保護者アンケート調査の同項目に対する肯定的回答が 62.4%と 20 ポイント以上の差があり、かつ、分からないと回答した保護者が 25.4%いることから、保護者に授業の工夫について伝えることに課題があると考えられる。

### 3 多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育の推進＜自己肯定感・協働する力＞

- ・児童の「友達の気持ちを大切にし、話を聞いている」の肯定的評価は 96.0%（昨年度 83.2%）と高い結果であった。学校生活の中で友達の気持ちや存在を大切にして話を聞くことで、相手を尊重することができている。
- ・児童の「私は、自分を大切にしたり、自分のよさを見つけ自信をもったりしている」の肯定的回答は 76.4%であり、保護者の「本校の、学び合いや学びを振り返る活動を通して自分のよさを見つけ自分に自信を持つ取組は、効果があると思う」についても 70.4%であった。さらに児童の自己肯定感を高めていくために、教師が一人一人のよさを見取り、伝え、認めていく必要がある。

### 4 地域社会と協働した教育の推進

- ・近隣小学校との連携や交流活動は計画的に行われており、学び舎を通じた小中学校間の連携、情報交換が、教育活動を支えている。地域の人々や施設を活動に生かす取り組みも行われており、地域の活動にも協力的であることが示されている。
- ・学校行事や PTA、地域主催の行事に対する協力姿勢は高く、特に、PTA との連携が積極的に行われている。保護者や地域的心声を反映した教育活動が実施されており、地域参画型の学校運営がなされているといえる。
- ・地域に対する情報提供は、59.3%（昨年度 56.0%）で行われていることが確認された。すぐるやホームページの学校日記などを通して、学校の様子を発信していることが、高い結果につながっている。また、学校運営委員会が、地域・保護者に対してその活動を伝え、教育活動に反映させているので、地域の理解が高い。

### 5 健やかな体づくり＜非認知能力・創造する力＞

- ・体育朝会を年間指導計画の中に位置付け、体育的な内容や様々な運動を計画的に取り上げ、児童の運動への興味関心をもたせるようにし、学校での運動機会の確保により、児童の外遊びの習慣の向上が見られた。結果、すすんで体を動かしていると回答した児童が多かった。
- ・東京都統一体力テストの結果から、全学年で反復横跳びに課題があった。そのため、瞬発力・俊敏性を向上するための取り組みが必要である。ソフトボール投げの数値は、全国平均と同程度の数値であったが、平均よりも下回る学年も見られた。運動経験や運動機会の少なさが要因として考えられる。

### 6 学校における働き方改革の推進

- ・「校務分掌が適切に分担されているか」という問いに対し、「とても思う」「思う」の割合が前年度は、57%であったが、今年度は 71%と大幅にポイントを上げることができた。年度初めより、業務の整理を行っていったことによる成果だと考えられる。業務内容に偏りがないよう、ヒアリングを中心に調整している。
- ・「余白を生み出せているか」という問いに対しては、64%という結果でやや低めだと考える。この項目は今年度から追加されたものであり、昨年度と比較はできないが、改善が必要である。1 年間の予定は、前年度に決められており、多岐にわたる諸会議の日程や時間を改めて設定し直すことが困難であり、余白の時間を新たに作り出すことができなかった。ただし、今まで会議の開始時刻の提示のみであったが、年度途中から会議終了目安時刻を周知することにより、会議時間が大幅に長引くことは解消された。